



## 災害時における歯科的問題

### お見舞い

このたびの東日本大震災で被災された方、ご家族並びにご関係の皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。

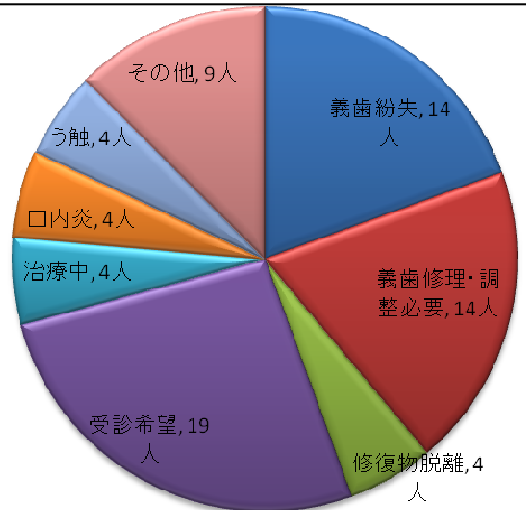
私も法人におきましては、今回の被災地に向けて、歯ブラシ、歯磨き粉、マスクを自治体の窓口を通し、緊急支援物資として送らせていただきました。

一日も早い被災地域の復興と皆様の健康をスタッフ一同心よりお祈り申し上げます。

### 阪神・淡路大震災での事例

平成7年に発生した阪神淡路大震災においても、今回の震災同様、避難所生活を余儀なくされる方が大勢いらっしゃいました。その生活が長引く中で問題になった一つに、歯に関する様々な訴えがありました。下のグラフは被災約1ヶ月後の避難所において兵庫県歯科医師会が166人に聞き取り調査をした結果です。その中で治療を必要としている人が74人おり、その内訳がグラフ中の数字になります。

注目すべきは入れ歯の紛失、及び修理調整が必要な方が多くいらっしゃる点です。また、多くの方が受診を希望され



### 具体的な問題点

#### ① 急な歯の痛み

痛みが出ても治療が出来ず、我慢する日々が続き、痛みがひどくなった為のように食事も取れない状況があった。

#### ② 入れ歯の紛失

避難する際に入れ歯を持ちだすことが出来なかつた高齢者は、食料が届いても、十分に食事を摂る事ができなかった。(避難所では高齢者に合わせた食事形態にすることが極めて困難である)

③ 修復物(差し歯や詰め物など) 脱離やお口の中のケガも発生

非難される際に様々な外傷と共に歯が折れた方や、口腔内を怪我された方、差し歯などが取れたために、すぐに治療が必要な状態の方も少なくなかった。

「阪神・淡路大震災と歯科医療」兵庫県歯科医師会 調査人数 166 人中治療を必要とする 74 人の内訳

#### ④ 歯磨きが出来ない

歯ブラシはもろろん、水が無い状況で歯磨きがほとんど出来ない日が続きました。これにより、歯周炎や口内炎になり歯茎の腫れや膿むといった症状がありました。

この震災関連で亡くなられた方922人のうち223人(死因1位)が肺炎で、その多くが「誤嚥性肺炎」であったという調査もあります。(神戸常盤大学短期大学部足立教授調査)「誤嚥性肺炎」は口腔内を清潔に保つことで、かなり予防することが出来ます。(ラビット通信8号参照)

一般的に口腔ケアが直接的に生命に関わっているという認識が薄いために、適切な処置が遅れたことが、さらに被害者を増やす結果となったことは残念でなりません。

### 災害から学ぶこと、噛むことは命を守る

高齢者において、万が一災害にあい避難した場合、食べることは命を繋ぐことを意味します。だからこそ、普段から入れ歯でしっかり噛むことを意識し、保管場所を枕元に決めるなど、いざという時に行動できるようにしておきましょう。また口腔ケアへの意識を高め口腔内を清潔に保つ習慣を身に付けること。さらに定期的な歯科受診を心掛けいつも良い状態にしておきたいですね。万が一のときに命を守るために。

**口腔内も備えあれば憂いなしです!**